

「みんなには健保組合です！」

有限会社 高陽運輸の巻

お盆のころはしのぎやすい日が続いて、長期気象予報どおりに今年はやっぱり冷夏かと思わせた日が嘘のような厳しい残暑が続くなか、子どもも大人も夏休み気分がまだ抜けきらない九月三日、私たちは千葉市花見川区に所在する有限会社高陽運輸をお訪ねすることになりました。

今回の訪問先の選定にあたっては、第七回事業所対抗野球大会（一八ページ参照）で、見事紫紺の優勝旗を手にした優勝チームの事業所にお邪魔することをあらかじめ決定してお



事務室でハイチーズ

り、該当されたのが高陽運輸でした。

組合の事務所を出発し、千葉市を南北に流れる花見川と物流の動脈、国道一六号に挟まれた千葉鉄工団地の中にある目的地に到着しました。鉄工団地といっても、比較的静かな環境のなかに高陽運輸はありました。

事務所の玄関をノックし、「こんにちは健保組合です！」と挨拶すると、柳澤社長が大きな声で「ようこそ」と私たちを出迎え、応接室で取材にお付き合いくださいました。

最初の話題は、野球大会に関することから始まりました。柳澤社長は野球にも深い関心をおもちで、今回の優勝をことのほか喜んでいました。

野球大会は土、日に実施していることから、主要なドライバーを営業日である土曜日に出すことは、景気の回復が思わしくなく、人員削減など経営努力をしているさなかでは大変厳しいとおっしゃいました。しか



柳澤社長

し、グラウンドの確保など事務局の事情もご理解いただき、それ以上に従業員の結束が強められ、一つの目標に向かって努力することが、野球以外にも多岐にわたって効果が得られるとの理解を示してくださいました。

氏は、関係者の方々とともにグラウンドに足を運ばれ、選手の皆さんに声援を送られました。そんな縁の下での働きがあつてこそ、今回の優勝につながったのではないのでしょうか。

二年後の二〇周年記念事業は「従業員の労をねぎらふ」ことを第一に

続いて話題は、組合の現況報告のうち、同社の概要へと移行しました。高陽運輸の設立は、昭和五十四年五月とのこと（社名の由来は、孫子の書物からだそうです）。設立時は、市内の別の場所を本拠とされていましたが、そこが手狭になり現在地に移転して来られたそうです。需要の拡大とともに徐々に増車し、既存の

顧客を大切にしながら、事業基盤を築いてこられたようでした。

現在の主な取引先は、建設および加工会社で、機材・資材等を運搬する仕事が多く、保有車両は移動クレーン、ユニック車で、それらをフル稼働し、業務に専念しておられるそうです。今後は、多様なニーズや急激な景気の変動に対応できるよう、多角的な営業活動も必要との考えもあるようです。着実に一歩一歩歩んでこられ、二年後には設立二〇周年を迎えられるそうです。

（おめでとうございます！）

物事には前向きにアイデアを駆使して対処されるとお見受けした柳澤社長に、「二〇周年記念事業の構想は何かおもちですか？」と質問しますと「従業員の労をねぎらうことが第一」という言葉が返ってきました。工夫を凝らした大きな行事をお考えと期待した私たちがでしたが、氏の素朴けれども重みのある答えを頂戴して、的はずれな答えを期待した私たちが恥ずかしくなり、改めて氏の思いやりや、優しさを実感しました。

研修・ビデオなどで徹底した事故防止教育の実践

話題は事故防止や健康管理に移り

ました。どの事業所を訪問しても経営者が口を揃えておっしゃる事故防止については、柳澤社長も徹底した教育を実践しておられるようです。

毎月二回研修を行い、参考ビデオの鑑賞や目標を掲げてその励行を徹底されています。その一環として、年に一回、一年間の実績を基に無事故表彰を行っており、約半数の方々を対象となるそうです。

これを機会に健保組合の保健事業として実施している健康者表彰の伝達式も行ってくださるとのことです。



物流の総合商社をめざして

暴飲暴食を控えてゴルフを楽しむ、書道で内省の時を過ごす

最後の話題として、氏の健康のことについてお聞きしてみました。野球には少年時代からかわつておられ、また「サンスポマラソン」の出場経験をもつほどのスポーツマンでいらつしやいました。さらに驚いたことには、四〇代まではご自宅から会社までの約七キロの道のりを、ジョギングで通っていたこともあるとのことでした。

現在は、暴飲暴食を控えてゴルフに行くことを楽しみ、また書道もたしなまれるとのこと。趣味のなかに静と動を同居させ、ご自身を省みる機会をつくっておられるのではないのでしょうか。

こうして、柳澤社長のにじみ出る優しさと、内に秘めた厳しさや闘志を伺うことができた取材を終えることとなりました。取材にご協力いただきました皆さん、ありがとうございました。

応接室には、野球の優勝旗を抱いた選手の皆さんの写真が額に入れられ大切に飾られていました。社長はこんなにも、選手の方々や従業員の皆さんを大切に思っておられます。

折しも決勝戦が行われた七月二十日は、社長の誕生日でした。選手の皆さんは優勝という大きなプレゼントを社長に贈りました。それは、信頼関係が生んだ起こるべくして起こった偶然だと、私たちは感じました。帰りの車の中で、熱闘を繰り広げた選手の皆さんの雄姿が去来したことは、いうまでもありません。

■ ■ ■
ところで、夏休みの最後に、ダイアナ

元妃が交通事故で亡くなりました。私たちの日常生活のなかで車の占めるウエートがかなり高くなつており、仕事のうえでも車は皆さんと密接な関係にあります。不幸にして、千葉県は交通事故による死者の数が、毎年ワーストランキングのトップクラスに位置しています。

自分の家族を惨劇に巻き込まないためにも、私たちの業界が率先して事故防止に立ち上がりましょう。